

## 宮島細工産地の諸問題と今後の方向

吉岡 慎一 石井 廣志<sup>1</sup>

世界遺産で知られる宮島（広島県廿日市市）には伝統工芸「宮島細工」がある。宮島細工の起源は鎌倉時代まで遡ることができるといわれ、杓子、挽物、刳物、彫刻などが中心で多様な製品がみられる。事業所は全般的に小規模で、多くが個人事業者であり、従業員を雇用しているのは2社のみの状況である。需要が減退しているなか、従業員の高齢化、生産能力の低下など構造的な問題が、産地内で深刻な状況となっている。

産地としては、宮島細工の現況を把握したうえで、後継者などの担い手の育成と、新たな商品開発・市場展開等を図り、持続可能な産地形成を目指すことが求められている。

方法として、産地調査・診断を実施するため、産地の実態を関係機関のヒアリング調査および事業所ヒアリング調査、消費者アンケート調査を実施し、3回の地元検討会の諸々の指摘についてKJ法を用いて意見集約を図った。また、将来構想の策定にあたっては先進事例調査も実施した。

キーワード：宮島細工、杓子、宮島彫、伝統産業会館、世界遺産

### はじめに

伝統工芸産業は、地域に歴史的、文化的な背景を持つ代表的な地場産業の一つである。その特徴として、伝統的な生産・流通体系をもち、多くの場合原料の確保・調達から製品の製造、販売まで広い範囲にわたって地域との関わりをもっている。その関わりは所得の確保、雇用機会の提供といった経済的側面ばかりでなく地域住民の日常生活や行動様式あるいは当該地域の文化とも密接な繋がりをもっている。しかしながら、これらの伝統工芸産業を支える企業の多くは、零細的、生業的な中小企業であり、このため生産性の向上をいかにして図るかが地域活性化の大きな課題となっている。

一方、これらの伝統工芸産業を取り巻く環境の中で、特に近年著しい消費者ニーズの多様化、高度化が顕著になってきており、これへの的確な対応を求めた伝統工芸産業の新たな活性化が模索さ

れている。

世界遺産で知られる宮島（広島県廿日市市）の伝統工芸「宮島細工」産地を取り巻く課題として

- ① 生活様式の変化と消費者ニーズの多様化
- ② 国内の競争の激化
- ③ 後継者、従業員難

といったものを挙げており、これらへの対応として、

- ① 生活様式の変化と生活水準の向上にマッチするデザインの開発
- ② 販路の確保と拡大のための産地製品の個性化
- ③ 小規模企業としての活力を充分発揮させ、新用途分野への円滑な対応力を養う。
- ④ 後継者育成、伝統工芸技術の継承を図るための人材育成

等を考えている。

また、世界遺産に指定されている厳島神社には年間250万人が訪れ、わが国を代表する観光地「宮島」に根付く伝統工芸品「宮島細工」としての存在も大きなものがある。

本稿は、宮島細工産地の実態を把握し、産地

みずほ情報総研株式会社

1 人文学部 工芸文化学科

に内在する問題点・課題を明確にした上で、産地としての今後の展開方策について検討を行うことを目的として(財)伝統的工芸品産業振興協会が平成18年度に実施した「伝統的工芸品産地調査・診断事業」に調査員として協力した内容について紹介するものである。

## 1. 調査概要

### (1) 調査実施内容

調査実施内容については表1のとおりである。

### (2) 宮島細工産地の概要

#### 1) 生産動向

杓子、挽物、刳物、彫刻などが中心で多様な製

表1 調査実施内容

調査項目	調査対象
資料文献調査	既存統計、廿日市市資料 組合資料他
関係機関 ヒアリング調査	廿日市市産業観光部 宮島町商工会、宮島観光協会 宮島細工協同組合
事業所 ヒアリング調査	組合員の全事業所（7事業所）
消費者 アンケート調査	インターネットを利用したモニター調査：関東圏の一般消費者 （登録モニター） 回答者数：100名 （男48名、女52名）
先進事例調査	石川県、愛知県、佐賀県
KJ検討会	検討会メンバー 12名

(出所)「平成18年度 伝統的工芸品産地調査・診断事業報告書-宮島細工-」(財)伝統的工芸品産業振興協会

表2 産地事業者のヒアリング結果

項目	結果
経営動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和50年代頃まで、収入も比較的良かったので、子供がいても十分に生活していくことが可能であった。</li> <li>バブル崩壊の前くらいまでは、比較的景気が良かった。</li> <li>その後、経営的に厳しくなってきたが、合理化、機械化による省力化で何とか乗り切ってきた。</li> <li>現在受注量は以前に比べて激減し、単価も悪く収入も大きく落ち込んでいる。</li> </ul>
受注・生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>受注生産が中心であるが、概ねどの時期にどの程度の注文が来るかは予想できるので、それにあわせて生産の段取りを考えることとなる。</li> <li>最近、近場から材料を調達できなくなっており、秋田から取り寄せたりしている。木材商社に頼むと良質の材も調達できるが、高すぎて手が出ない。材は、突板にするようになってから特に高くなった。</li> <li>原材料が高くなっても、商品の売値は変わらないため、経営的には厳しい状況となった。</li> </ul>
流通状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>発注元は、町内の土産物屋（小売）、問屋が中心であり、流通も地元が中心である。</li> </ul>
経営上の課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供はいるが、跡を継がせない事業所が多い。これは、収入が厳しく、家族を養っていけないからである。</li> <li>収入が厳しいので、職人を雇うことも出来ない。このため、家族労働とならざるを得ない。</li> </ul>
人材に係わる課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術を後人に教えたいとは思っているが、魅力が無いことから、積極的に習いたいという人は少ない。</li> <li>伝統産業会館では、町の事業として技術指導を行っているが、趣味から脱しきれない人がほとんどである。</li> <li>事業所で人を雇ってOJTで人材育成を図ろうにも、生活できるような賃金を出すことができない。</li> <li>仮に若い人が入ってきて、現状では、宮島細工で食べていくのは難しい。</li> </ul>
商品開発・市場展開に係わる課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮島細工の技法を活用した新たな商品開発などについては、積極的には行われていない（事業所に体力がないことも要因）。</li> <li>製作から販売までを一人で対応している事業所が多く、事業所として組織的な動きをとっている所は少ない。</li> </ul>
産地・組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>工程による事業所間での分業については、ほとんど行われていない。</li> <li>現状、組合自体の存亡が危ぶまれる状況である。</li> <li>木工関係では、旧廿日市市の企業・業界が大きい、旧宮島町は合併により行政的には一緒になったものの、業界間の連携は薄い。</li> </ul>

(出所) 表1に同じ

表3 宮島細工に対する消費者の評価

項目	評 価
宮島細工の認知度	・「知っている」は7%で、「まったく知らなかった」が全体で6割強を占める。
「宮島」からの連想	・20項目中、上位5は「厳島神社」「安芸の宮島」「世界遺産」「もみじ饅頭」「カキ」で、「宮島細工」は8位に出現しており、宮島との関連づけは弱い。
宮島細工の製品に対する評価	・評価の高い上位3は、「小箱」「木彫品（装飾用）」「杓子（実用）」であるが、「特に良いと思うものはない」が2割強を占め、これは第1位と同数になっている。
自家用としてのニーズ	・人気上位3は、「杓子（実用）」「小箱」「木彫品（装飾用）」であるが、「特に良いと思うものはない」が30%を占め、これが最も高い数値となっている。
同価格帯	・500～1,000円、1,000～2,000円、2,000～5,000円が拮抗し、これらで全体の9割を占める。
ギフト用としてのニーズ	・人気上位3は、「杓子（実用）」「小箱」「丸盆」であるが、「特に買いたいと思うものはない」も、全体で2割以上を占め、これが最も高い数値となっている。
同価格帯	・2,000～5,000円の価格帯が最も多いが、5,000円超から10,000円以下までの価格ゾーンも、全体の約1割にのぼっている。
製品ニーズ	・以下に対するニーズが多く見られた。 「実用的なもの」、「日常使えるもの」、「全く新しい商品」、「デザイン的にすぐれているもの」、「手ごろな価格のもの」

(出所) 表1に同じ

品が見られるがそれぞれの生産量は少ない。

組合における共同販売事業の実績によれば、平成17年度の杓子の販売数量は41,500個（販売額3,315千円）、平盆の販売数量は355個（販売額355千円）でその他も加え販売額の合計は3,975千円である。

## 2) 事業所数等

平成18年度末時点での組合員数は8事業所であり、減少傾向にある。これとともに従事者も減少している。

## (3) 宮島細工産地の実態

### 1) 事業所ヒアリング調査に基づく実態

経営動向、受注・生産、流通状況、経営上の課題と対応等についての結果は表2のとおりである。

### 2) 宮島細工に対する消費者の評価

アンケート調査に基づく結果は、表3のとおりである。

## 2. 宮島細工産地の問題点と課題(表4)

### (1) 事業所サイドの問題点・課題

宮島細工の製造部門を担う事業所は後継者がいないことから事業も縮小傾向にあり、後継者育成につながる仕掛けが必要である。また、宮島細工

の職場は、若い人が定着するには厳しいが、2次製品を作っている企業での雇用、伝統工芸士から高い技術を学べることを考えれば、条件づくり次第で定着も可能となる。すなわち、若い人に厳しい職場だがカッコ良さもある。事業所サイドの問題点・課題として次の4つのポイントがある。

- ① 組合員の中には後継者がなく、自分の代で生産を打ち切る者や組合員が亡くなられて卸売のみになるなど事業の縮小傾向にある。
- ② 後継者育成の仕掛け、仕組みづくりは、まず仕事でメシが食える産地を目指すことで、ある程度の量産体制をつくる必要がある。
- ③ 宮島細工の職場は、若い人が定着するには厳しいが、伝統工芸士から技術を学べることを考えると、カッコ良さもある。
- ④ 宮島細工の2次製品を作っている企業は雇用力もあり、観光土産品をはじめ一般消費需要を支えているが、外国製品の攻勢もある。

### (2) 産地構造等、産地全般に係わる問題点・課題

宮島細工の組合は発足時30数名の組合員がいたが、現在は8名となってしまう、多様な製品づくりを活かしたアンテナショップも手放してしまうことになる。この間後継者問題は長年の課題となっており、組合の存続も危ぶまれている。すなわち、後継者難を最大の要因とする組合員数、組



合事業の縮小により、組合の存続が危ぶまれている。産地構造、産地全般に係わる問題点・課題は次の3つのポイントになる。

- ① 組合発足時は30数名の組合員がいたが、現在は旧大野町に存在する伝統工芸士作家も加え8名で、非組合員が数名いる。
- ② 宮島細工の組合は、設立当初から様々な製品づくりの業者で構成され、それを活かしたアンテナショップを運営していたが今はない。
- ③ 後継者問題は長年の課題で、その解決に組合の存続がかかっており、今や一刻の猶予もままならない。

### (3) 人材に係わる問題点・課題

宮島細工の技術水準は、担い手の高齢化・後継者不在・需要減退等で後退しており、伝統工芸士である組合長のもと、組合の存続をかけて技術継承に取り組もうとしている。人材育成事業については他産地の例に学ぶ必要があり、様々な加工技術・デザイン開発力の向上を目指した独自の職業訓練校や定年退職者をはじめとする素人を受け入れる制度の創設も望まれる。すなわち、宮島細工の技術水準は担い手の高齢化・後継者不在等で後退し、組合存続がかかっており、人材育成事業については他産地の施設・制度に学ぶ必要がある。人材に係わる問題点・課題は次の4つのポイントになる。

- ① 宮島細工の技術水準は、担い手の高齢化・需要減等で後退しており、技術継承が危機に瀕している。
- ② 伝統工芸士である現理事長(63才)のもと、杓子の伝統工芸品復活を目指している専務(43才)と期待される若いM組合員(30才)もいる。
- ③ 木曾漆芸学院は、デザインや塗りの工程を働きながら学べ、熊野筆も専門学校をスタートさせ、ともに素人を受け入れて行政の補助がある。
- ④ 組合員の中に定年退職後に工房を構え、後継者育成事業の講師をしている人材も育ており、退職後のシニア世代の活用も考えたい。

### (4) 製品開発・技術開発に係わる問題点・課題

宮島細工産地の根幹(高い技術に基づく伝統工

芸品)を確実に継承するとともに、原材料・技術・市場を変え、生まれてくる2・3次製品の量産体制が、車の両輪として産地を支え、後継者育成にもつながる仕掛けになる。これを踏まえ、宮島細工の新たな需要拡大と技術継承を目標に本物志向世代に絞った新製品開発が必要で、異業種交流や異種素材との組み合わせにより、産地の技術を再発見することも必要ではないかと考えられる。すなわち、伝統工芸の確実な継承と生まれる2・3次製品が産地の支えであり、技術継承とともに必要な需要拡大のための新製品・新技術開発が必要である。宮島細工の製品開発・技術開発に係わる問題点・課題は次の4つのポイントになる。

- ① 伸びている産地の伝統工芸品はあくまで産地の顔で、原材料・技術・市場は変えながら事業転換で生き残っている。
- ② 宮島細工の根幹(高い技術に基づく伝統工芸品)を大切に継承する中で生まれてくる2・3次製品があって産地の発展もある。
- ③ 宮島細工も熊野筆にみるように、新たな需要拡大を図るため、本物志向世代に絞った新製品開発が必要である。
- ④ 異業種や異種素材との組み合わせは、かつて七宝焼との融合製品を手がけており、今後は県内工芸にこだわった取組はどうか。

### (5) 需要開拓・市場展開に係わる問題点・課題

世界遺産の中で生まれた宮島細工は、日本の心を形にした文化財であるが、認知度に欠け、市場ニーズに充分応えているとはいえず、今後は人材発掘や需要拡大のための情報発信が必要となっている。すなわち、世界遺産の中で生まれた伝統工芸品という知名度の向上が必要である。宮島細工の需要拡大・市場開拓に係わる問題点・課題は次の3つのポイントになる。

- ① 世界遺産の中で生まれた宮島細工は、日本の心を形にした文化財として、年間250万人の観光客を味方に、将来の担い手を育てる。
- ② 市場からのニーズの視点で捉えると、宮島細工の製品構成の認知度が低いことや経営基盤・組織のあり方が問題となる。
- ③ 制作体験などをきっかけとして人材の発掘や

需要拡大につなげる。

### 3. 宮島細工産地の振興に係わる方策（表4）

#### (1) 後継者等人材育成に係わる方策

多様な価値観や世代の違いなどをうまく活かして人材の育成を図ることが必要となっている。すなわち、価値観と世代の多様性を活かした人材育成の方策のポイントは次の2つになる（図1）。

- ① お金だけで人が入ってくるわけではない点にも留意して人材育成を図ることが必要である。
- ② 世代の持っている特性を活かして人材育成に結びつけることが必要である。

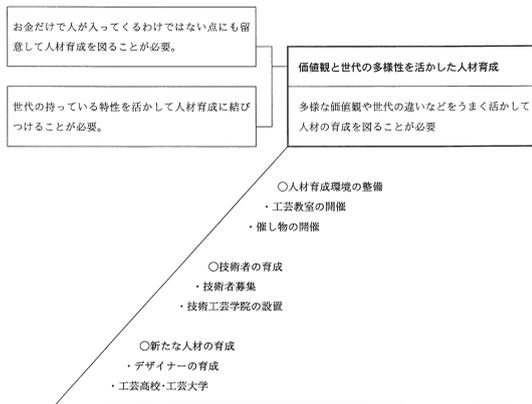


図1 価値観と世代の多様性を活かした人材育成

#### (2) 新たな製品開発等に係わる方策

伝統工芸としての宮島細工の分野、および2・3次製品の分野など、常に新たな製品を開発していくことが必要となっている。すなわち、宮島細工の伝統技術を根幹として、2・3次製品開発を積極的に行う必要がある、新たな製品開発等に係わる方策のポイントは次の4つになる（図2）。

- ① 鹿の角などの未利用資源、昔あった技術も活かした新製品を作ることが必要である。
- ② 2・3次製品の開発により、若者が定着できる仕組みをつくる必要がある。
- ③ 宮島細工の領域の中でも新製品を考えていく必要がある。
- ④ 宮島細工の本流だけではなく、他の分野と組み合わせさせていくことも必要である。

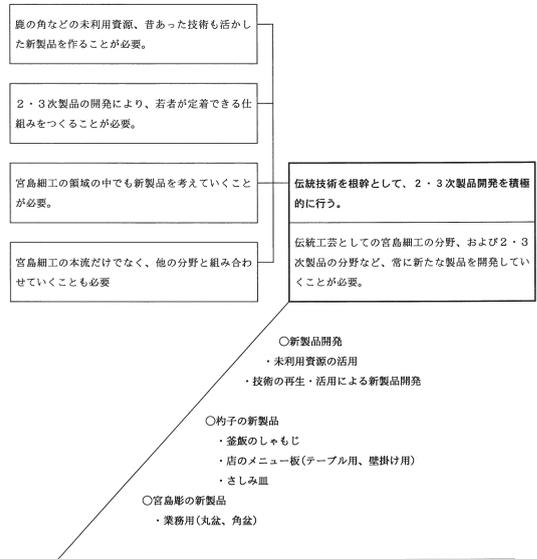


図2 伝統技術を根幹として、2・3次製品開発を積極的に行う

#### (3) 今後の市場展開に係わる方策

多様な産業資源の連携を図り、観光地としてのメリットを活かして市場展開を図ることが必要となっている。すなわち、わが国を代表する観光地に根付く伝統工芸としての多様な市場展開を行う必要があり、今後の市場展開に係わる方策のポイントは次の2つになる（図3）。

- ① 体験観光など観光地の工芸産業としてのメリットを活かしていくことが必要である。
- ② 宮島細工と他産業の連携を積極的に図っていくことが必要である。

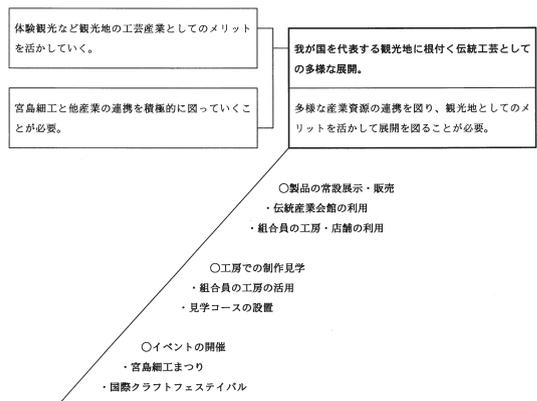


図3 我が国を代表する観光地に根付く伝統工芸としての多様な展開

#### (4) 産地技術に係わる方策

宮島細工としての伝統は重要であり、これが将来の基礎にもなる。すなわち、宮島細工産地の基礎は伝統に培われた技術の継承であり、産地技術に係わる方策のポイントは次の2つになる(図4)。

- ① 宮島細工は地域にとって不可欠な資源であり、大切に残していくことが必要である。
- ② 伝統工芸士として常に上を見続ける姿勢も産地には必要である。

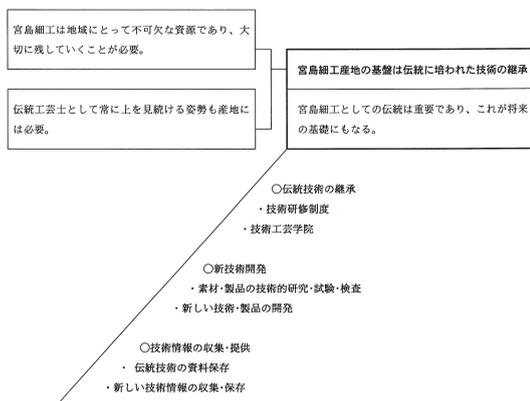


図4 宮島細工産地の基盤は伝統に培われた技術の継承

#### (5) 産地における事業推進にかかわる方策

まず、宮島細工の振興に向け制度事業を有効に活用しつつ、お互いに調整を図りながら地域が一丸となって動き出すことが必要となっている。すなわち、地域ぐるみの制度事業を有効に活用することが必要であり、今後の産地における事業推進に係わる方策のポイントは次の3つになる(図5)。

- ① このままでは、座して死を待つのみであり、2～3年で何とか動きをつくる必要がある。
- ② 宮島細工産地が一体として動くには、地域の意識の統一が必要である。
- ③ 国や県の制度事業をうまく活用し地域全体で動くことが必要である。

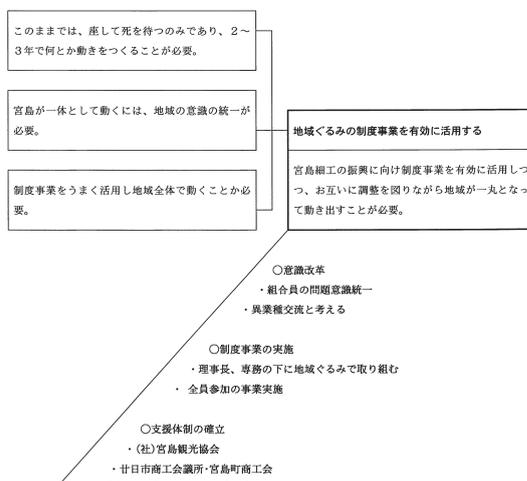


図5 地域ぐるみの制度事業を有効に活用する

具体的事業として、会館事業を核に収益の面でも自立できる事業を展開し、宮島細工の復活のきっかけとすることが必要となっている。すなわち、会館事業を核に宮島細工に新たな息吹を期待するものであり、本事業推進に係わるポイントは4つある(図6)。

- ① お金を払っても来なくなるような、魅力ある収益事業を会館ベースに展開する必要がある。
- ② 会館事業や後継者育成事業により、まず動きをつくる必要がある。
- ③ 会館のリニューアルに係わる事業が進展しており、組合としても積極的に取組む必要がある。
- ④ 宮島細工や他の地域資源を取り込んだ販売拠点を持つことは重要である。

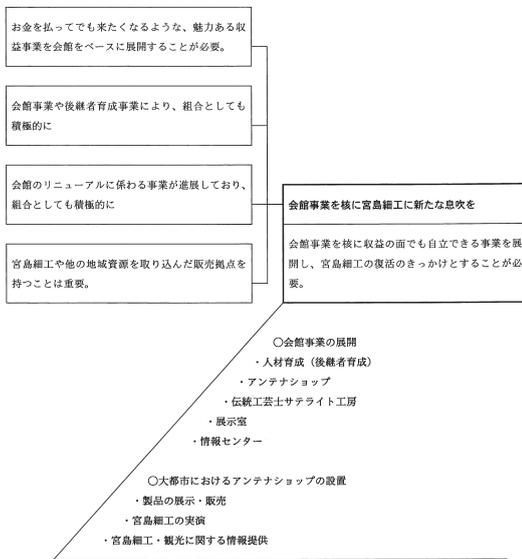


図6 会館事業を核に宮島細工に新たな息吹を

#### 4. 宮島地場工芸再生構想

本稿で取り上げた宮島細工産地の調査・診断結果に基づき、以下に当産地が依って立つ宮島（廿日市市）へ向けたメッセージとして、「宮島地場工芸再生構想」をここに試論として展開し、本稿を閉じたい。ここに示す構想の視点は、従来の産業視点・文化視点から地域視点にシフトしたもので、廿日市市の地域経済・社会の活性化に向け、期待と願望をもって提言するものである。

##### (1) 構想のねらい

地方の時代と言われ、地方の自立・自走が大きな課題となつて久しい。この間、地方独自の文化を醸成し、自立に必要な自律できる産業を育成し、個性ある地域づくりが問われ続けてきたのである。

自律できる産業とは、本来の地場産業であり、地域に確たる技術・市場を持つ工芸産業がその一つといえる。工芸産業は、原材料の供給、技術の蓄積等、地元をベースにしつつも、製品の質・個性からして、より広範な市場への可能性を持っており、地域の自立・自走を支える有力な産業といえる。

地場工芸品は、実用性・耐久性を備えた美しさ

を持ち、使い捨ての工業製品と異なり、手づくりの温もりを伝え、生活に潤いを与えてくれる。また良い品物に日常的に接することにより審美眼を養うとともに、地域文化の豊潤化にもつながるものである。

わが国には、各地に優れた地場の工芸品産業があり、産業的にも、文化的にも地域の資質を支えてきた。

もとより、一つのコテコテで地域づくりが完結することはあり得ないが、地場の工芸産業の振興は、単に工芸分野の経済的発展にとどまるものではなく、地域づくりに必要な多くの要因と密接な関係を持っている。その関係をより強め得ることが明らかになれば、地域づくりに必要な広汎な人の理解と協力が得られることにつながろう。

#### (2) 構想の基本的方向と特性

##### 1) 基本的方向

宮島に優れた伝統工芸品があることは、端的に言えば宮島の社会・経済・文化の高さを示している。優れた伝統工芸品が生まれてきた過程そのものをみると、人為的な英知、技術の成熟度と伝統工芸品の社会・経済・文化的水準は比例しており、今後も、その関係を成立させていかなければならない。

そこで、本構想の基本的方向は次のようになる。

- ① 宮島細工の存在が廿日市市にとって、少なからぬ地域経済効果をもたらすべく、地域所得効果、雇用効果（定住効果）、他産業への波及効果等幅広い経済効果を持たせる。
- ② 宮島細工の存在が地域社会や住民生活の潤い、豊かさへのプラス効果につながり、それがまた優れた工芸品を生むといった好循環系をもたせる。
- ③ 宮島細工を核にした個性豊かな地域づくりを目指すもので、単なるハードな工房、商店だけでなく、個性ある生活文化の構築をも含める。

##### 2) 特性

地場の工芸産業は自律できる産業というだけではなく、その高付加価値ゆえに経済効果を持っているし、雇用力も持っている。また、地域文化

への寄与という点でも、工芸産業の存在は大きな意味を持っている。優れた工芸品を生活に取り込むことはとりもなおさず個性有る文化の体现であり、それが容易な地域は独自の生活を醸成していくことになる。地元で優れた工芸産業があり、自らの生活スタイルにマッチした品目も注文できるということは、同じ工芸品を使うにも一味違った生活文化を可能にする。それが地域のアイデンティティに、個性ある地域づくりにつながっていく。

そこで、構想の目指すものとしては、地域経済の活性化とともに、地域社会の維持をも射程に据えたものである。

#### ① 地域経済の活性化

地域経済効果としての地域所得の向上、雇用機会の創出、他産業への波及的産業連関効果。

#### ② 地域社会の維持

地域社会効果として、工芸を通じての住民生活の潤いや豊かさ、工芸をからめた地域独自の社会福祉や社会教育の充実効果、工芸業の存在が直接・間接にもたらす都市形成・景観の波及効果。

### (3) 果たすべき基本的機能

構想のねらいとするところは、工芸業を地場産業としてとらえ、その構造に合わせた産業としての発展施策を講じようとするものである。

#### 1) 商品開発・技術開発

素材および製品の技術的研究や、品質の安定化などに充分検討を加え、新しい個性豊かな製品を開発する。

#### 2) 販路拡大・流通改善

従来の流通経路の特性を生かすとともに、新たな製品の販路としての差別化を図る。

#### 3) 人材の育成

伝統工芸士、工芸職人の再活性化を図るとともに、新たな人材資源の育成も図る。

#### 4) 情報化

アウトサイダーも含めた組織強化に生かすとともに、素材→加工→流通までも含めた産業連関情

報化を図る。

### 5) 消費者への啓蒙・PR

工芸業の持つ文化性を通して、消費者とのパイプを太くするとともに、消費者を情報源として活用する等の双方向性を持たせる。

## (4) 実現の方策

### 1) 基本的事項

本構想実現のための方策については、産業化、合理化のための諸機能の整備、地域アイデンティティ確保のための諸施策については、特に配慮する必要がある

### 2) 実現化のためのハード的施設およびソフト的施策

実現化のためのハード的施設およびソフト的施策は表5のようになる。

表5 実現化のためのハードおよびソフト施策

機能 \ 施策	ハード	ソフト
商品開発、企画開発機能	○商品開発センター ○共同利用工場(素材加工) ○デザインセンター ○試作支援センター	○異業種交流の強化 ○研究機関との共同研究 ○デザイン開発 ○研究活動の拡大
情報機能	○ネットの活用 ○情報の集中管理体制の確立	○情報発信 ○ニーズ調査
経営基盤の確立	○伝統産業会館 ○常設展示場	○総合物産展の開催 ○市場開拓戦略研究
人材育成機能	○研修センター ○大学、専門機関の誘致	○会館事業 ○テクノポリスとの交流
地域アイデンティティの確立	○コンベンション会場 ○シンボルゾーン ○イベント広場 ○伝統技術、資料の保存施設	○DIY教室 ○クラブ教室 ○市民祭 ○観光ツアー

### 3) 推進者

本構想は伝統工芸の産業化と地域文化の形成を2つの柱としている。前者の担い手は地域の伝統工芸企業であり、後者の担い手は伝統工芸企業を含む地域住民である。

ただ、いずれの場合においても行政の担う役割は大きく、特に構想実現の初期段階においては、地域の各種基盤が脆弱である場合が多いと考えら

れ、行政の果たす役割は重要と考えられる。

また、地域文化の形成についても、その担い手である地域住民および伝統工芸企業と行政の一体となった活動が必要である。

4) 構想の目的、機能、施設

構想の目的、機能、施設という関連で整理を行うと表6のようになる。

表6 構想の目的、機能、施設

目的	機能	施設
情報化	・資料収集・展示 ・工芸情報収集・作成・閲覧 ・市場情報収集・提供 ・各種展示会の開催	・県立工芸博物館 ・地場産業振興センター ・伝統産業会館
商品開発・技術開発	・素材、製品の技術的・研究・試験・検査 ・新しい技術・製品の開発	・伝統産業会館 ・各工房 ・工芸学校
人材の育成	・専門家及び技術者の育成 ・住民工芸教室の開催	・伝統産業会館 ・公立工芸高校・工芸大学
消費者への啓蒙・PR	・製品の常設展示・販売 ・工房での制作実演・体験 ・催し物開催 ・素材の育成・PR	・伝統工芸会館 ・工芸サロン ・催し物広場 ・工芸の森(里)・素材公園
販売拡大・流通改善	・販路斡旋	・伝統産業会館

(5) 構想の実現による期待される効果

1) 産業へのインパクト

産業へのインパクトは、既存工芸業そのものへと、産業化ポテンシャルの向上としてとらえられる。

① 既存工芸業

- i) 経営の高度化………既存工芸業の生産性の向上と経営体質の強化
- ii) 商品開発機能の充実………既存工芸業の新たな事業展開
- iii) 人材の育成………既存工芸業の再生産力としての人材の育成
- iv) 情報化の推進………素材→加工→販売(市場)を通じた情報化
- v) 流通機能の強化………製品の多様化を通し流通機能に幅が生まれる。

② 産業化ポテンシャル

- i) 産業の多様化………県内の既存工芸業とのリンクによる新たな事業分野が生まれる。
- ii) 産業基盤の強化………生活、文化の向上により、良質で多様な労働力の確保が可能である。
- iii) 立地条件の改善………技術ポテンシャルの強化が、新たな産業立地を促す。
- iv) 他産業への波及効果………既存工芸業の存在が域外の人をひきつけ、観光業への直接的な効果や技術蓄積を通じた他産業への間接効果を生ずる。

2) 地域へのインパクト

地域へのインパクトは、社会面、教育・文化面で捉えられる。

① 社会面

- i) 人口定着………所得の発生源(就業の場)が確保され、人口が定着する。
- ii) 生活水準の向上………雇用機会の増加に伴う所得の増加により生活水準が向上する。

② 教育・文化面

- i) 教育機関の充実………工芸産業への関心が高まるとともに、教育機関の充実が図られる。
- ii) 文化水準の向上………住民の工芸業への関心が高まり、工芸業と住民生活を結びつけた形で、独特の文化圏が形成される。
- iii) 都市形成・景観………工房の存在、工芸関連の店舗の存在等が地域の潤い、たたずまいに与える直接的・間接的な影響効果。

参考文献

- 1) 「日本の地場産業－伝統工芸編－」通産企画調査会 1981.10
- 2) 中小企業庁計画部計画課監修「新しい地場産業の創造－新地場産業集積圏構想－」(東洋法規出版 1986.1)
- 3) 「商工会地域における特産品の市場開拓に関する調査」全国商工会連合会 1986.3
- 4) 石井廣志:「地域資源の活用③ むらおこしの現場から」全国商工会連合会「商工会,325」1986.8
- 5) 「商工会地域における新特産品開発の手法に関する調

- 査」全国商工会連合会 1987.3
- 6) 石井廣志：「地域特産品の現状と市場開拓の視点」全国中小企業団体中央会「中小企業と組合」1987.7
- 7) 石井廣志：「地域再生への試み④ 益子町の明日を拓く」全国商工会連合会「商工会」,337」1987.8
- 8) 「地域個性化の展開」福井県商工会連合会 1989.3
- 9) 「報告書」活力ある地域づくりに関する懇話会 1989.12
- 10) 「地域個性化への展開」福井県商工会連合会 1990.3
- 11) 石井廣志：「工芸産業地域における産地等企業集積の実態調査」東京家政学院大学紀要 第33号 P185～198 1993.7
- 12) 「広島工芸と茶の湯四百年」(財)広島市歴史科学教育事業団 1994.10
- 13) 奥間圭子・石井廣志：「観光消費の風間浦経済に及ぼす影響」東京家政学院大学紀要 第35号 P139～152 1995.7
- 14) 石井廣志：「地域産品の開発と農業高校・水産高校等一連携・協力のための新たな視点」東京家政学院大学紀要 第35号 P153～174 1995.7
- 15) 石井廣志・奥間圭子：「リゾート施設における経済的波及効果推計－「マリンピアくろい」を対象に」東京家政学院大学紀要 第36号 P201～210 1996.7
- 16) 石井廣志・奥間圭子：「宮崎県地域中小企業振興ビジョン」東京家政学院大学紀要 第38号 P147～166 1998.7
- 17) 石井廣志・奥間圭子：「特産品としてのさつまいも関連商品の市場流通－全国動向と川越市の試み－」東京家政学院大学紀要 第39号 P37～54 1999.7
- 18) 石井廣志：『99むらおこし白書－16年目を迎えたむらおこし事業「再びむらおこしの現場から」』全国商工会連合会 1999.11
- 19) 第3セクター研究会編著「地域経営の革新と創造－分権時代の第3セクター－」(透土社 2000.5)
- 20) 石井廣志・奥間圭子：「個性的なむらおこしの戦略」東京家政学院大学紀要 第41号 P1～7 2001.7
- 21) 佐藤はるな・石井廣志：「個性的なまちづくりの戦略」東京家政学院大学紀要 第41号 P9～16 2001.7
- 22) 「平成13年版 伝統的工芸品の本」(財)伝統的工芸品産業振興協会 2001.9
- 23) 「宮島の物産」宮島町観光課(社)宮島観光協会 2003.3
- 24) 石井廣志：「工芸産業地域における産地等企業集積の実態調査(第2報)」東京家政学院大学紀要 第43号 P127～146 2003.8
- 25) 石井廣志：「観光地の再生(第1報)」東京家政学院大学紀要 第45号 P19～31 2005.8
- 26) 「広島特産品ブランド化委員会報告書」2006.3
- 27) 「第28回 通常総会」宮島細工協同組合 2006.6
- 28) 石井廣志：「観光地の再生(第2報)」東京家政学院大学紀要 第46号 P7～25 2006.8
- 
- (2007.3.29 受付 2007.5.28 受理)